



CM 紹介

「大人の☆生」をコミュニケーションテーマに掲げているサッポロ生ビール黒ラベルでは、独自の強みである「生のうまさ」に加えて「自分なりの価値観を持った大人同士が飲むビールである」という価値を訴求するため、架空の「大人エレベーター」に乗り込んだメインキャラクターの妻夫木聡さんがフロア数に応じた年齢の大人たちに出会い、サッポロ生ビール黒ラベルを味わいながら“大人”というテーマについて本音で語り合うCMを展開しています。



▲ 黒ラベル 大人EV 61歳 夢を持つとは篇 (2017年1月~放送開始)

魅力ある大人たちに出会える「大人エレベーター」で61階へ向かう妻夫木聡さん。そこには61歳大人代表の所ジョージさんが。「夢を持つとは？」という問いについての所ジョージさんの答えは？
(サッポロビール株式会社のホームページ「商品情報」ページにてCMをご覧ください)

商品 紹介

サッポロ生ビール黒ラベル

生のうまさこだわりの黒ラベルだからこそ、常に目指すのは「完璧」なうまさ。それは麦のうまみと爽やかな後味の完璧なバランス。味や香りを新鮮に保つクリーミーな泡。何杯飲んでも飲み飽きない、ビール好きの大人たちに愛されるビールへ。

黒ラベルのこだわりとは…

- 1 麦のうまみと爽やかな後味
- 2 何杯飲んでも飲み飽きない、完璧なバランス
- 3 泡持ちの良さがアップ、ひと口目の旨さが続く



SAPPORO



ごあいさつ

新たな10年の歩みへ、そして新たな目標に向けて

トップインタビュー

次の10年に向け、 長期経営ビジョンを始動

特集

長期経営ビジョン「SPEED150」および「第一次中期経営計画2020」の概要

第93期 株主通信

2016年1月1日から2016年12月31日まで

サッポロホールディングス株式会社

発行者：サッポロホールディングス株式会社

〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号(恵比寿ガーデンプレイス内)





新たな10年の歩みへ、そして新たな目標に向けて

サッポログループは、長期経営ビジョン「SPEED150」と「第一次中期経営計画2020」を発表し、2017年から新体制となります。

今般、2011年3月から務めてきたサッポロホールディングス代表取締役社長を尾賀に託します。尾賀はサッポロビール代表取締役社長として「ビール強化元年」を掲げ、将来の成長へ布石を打ってきました。

今後も掲げた目標の達成に向け、サッポログループ一丸となって邁進していきます。

代表取締役会長 上條 努

サッポログループはこの10年で様々な変化を遂げてきました。今後も活力のあるグループにしたいと考えています。

「SAPPORO」「YEBISU」「SLEEMAN」「POKKA」「銀座ライオン」「恵比寿ガーデンプレイス」など、サッポログループは数多くの個性あるブランドを持っています。

それらを磨くことで、『酒』『食』『飲』の分野において「個性かがやくブランドカンパニー」を目指していきます。

代表取締役社長 尾賀 真城

次の10年に向け、長期経営ビジョンを始動

Q1 経営トップとして、どのような舵取りをしていきたいとお考えですか。

A 刻んできた歴史とブランドをさらに磨き続け、いろいろな“もっと”を追求していきます。

当社グループは昨年、創業140周年を迎え、本年は次なる10年、150周年に向けた新たな歩みが始まりました。こうした節目に社長の任を受け、これまで刻んできた歴史とブランドを、これからも磨き続けていかねばならないという思いを強くしております。そして、そのために必要な挑戦と変革は、積極的に行っていきます。

私は、今まで以上に“もっと”を追求していきたいと思っています。「もっと楽しく!」「もっと分かりやすく!」「もっと価値あるものを!」「もっとグローバルに!」など、いろいろな“もっと”に挑戦していきます。

また、最も大切な経営資源は“人”であると確信しています。人を取り巻く組織や制度など、時代の変化に合わせて柔軟かつ迅速に変革していくことで、人が生き活きと仕事ができる職場環境づくりを行っていきます。

Q2 これまでの10年を、どのように評価しますか。

A 多層化事業の拡大や積極的なM&Aなど、過去10年の仕込みが現在の業績へとつながっています。

2016年までの10年間の歩みでは、従来にはなかった新しい取り組みが数多く行われてきました。国内酒類事業では、「サッポロ生ビール黒ラベル」「エビスビール」「麦とホップ The gold」の基軸3ブランドを核としながら、ワイン、和酒、洋酒などビール以外の多層化を推し進め、中でもワイン事業はビールに次ぐ第2の柱としての体制が着実に整ってきました。国際事業では、カナダでのスリーマン社買収やベトナムへの進出と工場建設を実現し、米国においてはシルバースプリングスシトラス社やカントリーピュアフーズ社等がグループ傘下に加わり、飲料分野にも参入を果たしました。食品・飲料事業では、サッポロ飲料社とポッカ社が経営統合し、ポッカサッポロフード&ビバレッジ社が誕生しました。不動産事業では、「恵比寿ガーデンプレイス」のリニューアルや「GINZA PLACE」の開業など大きな取組

国内酒類事業



サッポロ生ビール 黒ラベル

エビスビール

麦とホップ The gold

国際事業 海外の主要工場



スリーマン社 ゲルフ工場(カナダ)

サッポロベトナム社 ロンアン工場(ベトナム)

トップインタビュー

み課題に一区切りがつかしました。

国内外における10年間のこうした仕込みが着実に実績へと反映され、当社グループは、2010年以来、7期連続増収を果たすとともに、利益の安定的確保が可能な体質にもなってきました。ただ、10年前に立てた目標に対しては売上・利益ともに未達であり、早期にこの目標値を超えていくことが、今後に残された課題であると考えています。その意味でも、過去10年間の仕込みを、これからの新たな10年でさらに花開かせていきたいと思えます。

Q3

新たな10年の歩みについて、基本的な考え方を教えてください。

A

今後の持続的成長に向け、『酒』『食』『飲』に集中した事業展開を推し進めていきます。

2017年から始まった新たな10年の歩みについては、長期経営ビジョン「SPEED150」を策定し、経営の方向性を示しました。最大のポイントは、今後当社グループの事業展開は『酒』『食』『飲』に集中すると鮮明に打ち出したことです。今後も当社グループらしい持続的成長を果たしていくためには、さらに新たな取り組みを積み重ね、確かな事業成長を図っていくことが必要不可欠であると考えております。2026グループビジョンである「サッポ

ログループは、世界に広がる『酒』『食』『飲』で個性かがやくブランドカンパニーを目指します」には、こうした強い思いが込められています。

また、2026年までの10年間で3つの期間に分け、最初の4年間(2017年～2020年)を「第一次中期経営計画2020」として推し進めていきます。売上高成長の継続と最高益更新を目指すとともに、この目標達成のための基礎として、社員が動きやすい組織・制度などを、スピードをもって構築していきます。

Q4

事業別の戦略の方向性についても、簡単に教えてください。

A

各事業の取り組みを深化させ、収益拡大を図っていきます。

国内酒類事業では、まずは基盤となるビールについて取り組みをより深化させていきます。ビールの消費行動は今、量を飲む時代から一杯一杯を楽しむ時代へと変わり、ビールへの回帰も徐々に進んでいます。そうした中で「サッポロ生ビール黒ラベル」「エビスビール」「サッポロラガービール」などが着実に伸びてきており、確かな手応えも感じています。既存ブランドをさらに磨くとともに、付加価値を高めた新商品の開発などにも挑戦していきたいと考えています。また、アルコール飲料を取り巻く消費者の

嗜好性は多様化が進んでおり、ワインや焼酎など総合的な提案ができる品揃えの充実を図っていきます。

国際事業では、エリア拡大よりも、北米と東南アジアの2つの既存市場に集中した事業深化を図る方針です。北米では好調なビール販売に加え、新たに開始した飲料事業の体制を整え、収益の創出を図ります。東南アジアでは、ベトナムでのビール工場建設という先行投資を、販売数量拡大という成果の刈り取りへとつなげる時期がきたと認識しています。

食品・飲料事業では、強みであるレモンやスープを中心に、国産素材を活かしたお茶や粒入りの食感系果汁飲料など独自性を活かした商品開発を推し進めます。海外では、本年よりインドネシアやミャンマーで現地生産モデルを確立。高シェアのシンガポールを起点に、「POKKA」ブランドのさらなる拡販を進めていきます。

外食事業や不動産事業も『酒』『食』『飲』と密接に関わりあっています。これからもグループとしての一体感をもって取り組んでいきます。

Q5

最後に、株主の皆様にもメッセージをお願いします。

A

グループの結束力を強化し、最大の成果を目指します。

私どもの使命は、『酒』『食』『飲』のビジネスを通じて、お客様に喜んでいただき、明日への活力を育むようなブランドを築き上げることです。この使命を果たすためには、社員が喜びと充足感を持って仕事をするのが不可欠です。一人ひとりの個性が活きる組織・制度を築き、グループの強い結束力を生み出し、成果の最大化を図ってまいります。

株主の皆様には、引き続き変わらぬご支援をお願い申し上げます。



サッポロホールディングス株式会社
代表取締役社長

尾賀 真城

略歴

昭和57年(1982年)	3月	慶應義塾大学 法学部 卒業
	4月	当社(旧サッポロビール株式会社)入社
平成15年(2003年)	7月	純粋持株会社移行に伴い、サッポロビール株式会社新設
平成18年(2006年)	10月	同社 首都圏本部 東京統括支社長
平成21年(2009年)	3月	同社 執行役員 北海道本部長
平成22年(2010年)	3月	同社 取締役 兼 常務執行役員 営業本部長
平成25年(2013年)	3月	同社 代表取締役社長 当社 取締役 兼 グループ執行役員
平成27年(2015年)	3月	当社 グループ執行役員
平成29年(2017年)	1月	当社 グループ執行役員社長
	3月	当社 代表取締役社長

食品・飲料事業



ポッカサッポロの飲料

外食事業



ビヤホールライオン 銀座七丁目店

不動産事業



恵比寿ガーデンプレイス

GINZA PLACE(銀座プレイス)

サッポログループ長期経営ビジョン「SPEED150」

創業150周年にあたる2026年までに、グループが目指すべき姿として「長期経営ビジョン『SPEED150』」を策定しました。グループの成長の源泉は、長きに亘り培われた「ブランド資産」にあると改めて認識した上で、グループのコア事業を「酒」「食」「飲」の3分野と位置づけ、不動産事業とともにグループ保有のブランドを育成・強化していきます。

2026グループビジョン

**サッポログループは
世界に広がる『酒』『食』『飲』で
個性かがやくブランドカンパニーを目指します**

3つの成長戦略テーマ

1 国内酒類・飲食事業の収益力強靱化

国内酒類事業ではビール事業のブランド力強化とワイン事業の育成で、飲料事業では利益体質への転換と海外事業拡大により、収益力を強靱化してグループを牽引する。

2 「食」分野の拡大加速

あらゆる食シーンへの「おいしさ」「楽しさ」「豊かさ」の提供を通じ、既存事業の強化と新たな事業への参入で、広く「食」分野におけるサッポログループのプレゼンスを高める。

3 グローバル展開の推進

グループの成長ドライバーとして、グローバル経営基盤を強化し、既存事業の成長やM&A等含む新規開拓を推進することで、グローバルでのグループプレゼンスを拡大させる。

SPEED150 ロードマップ

第一次中期
(2017-2020)

成長ステージへの移行に向けた
異次元スピードでの変革

第二次中期
(2021-2023)

成長ステージでの飛躍を実現する
積極投資と成果創出

第三次中期
(2024-2026)

次なる成長ステージを見据えた
機会創出への挑戦

第一次中期経営計画2020

「長期経営ビジョン『SPEED150』」のもと、2017年から2020年までの4年間で取り組む基本戦略を「第一次中期経営計画2020」に定め、事業成長や成長機会獲得とともに、スピードをもってグループの経営変革に取り組みます。

基本方針と戦略概要

成長ステージへの移行に向けた 異次元スピードでの変革

グループ経営	事業活動		
グループ経営基盤の変革 グループの成長を促進させる「経営資源の戦略的シフト」「セグメント経営の事業構造変革と推進」による「基盤機能強化」を主導、実行する。	既存事業の継続的成長 それぞれの事業セグメントが定める競争領域の課題にフォーカスし、ブランド力の強化と継続的成長を実現する。	投資事業の成果創出 成果未創出の投資事業の収益性向上に取り組み、成長拡大ステージへの早期移行を導く。	成長機会の獲得
		1 「食」分野の拡大加速 「素材」と「加工」両面からの新たな価値創出へのアプローチに加え、生活者ニーズからターゲット領域を定め、付加価値性の高い食事業を育成する。	2 グローバル展開の推進 北米・東南アジアを中心に、それぞれのエリア特性を踏まえた戦略遂行と収益性を高める事業基盤の強化を進めながら、新たな成長機会を探索する。

定量目標



財務指標

2017年～2020年の4年間での実現を目指す

営業活動によるキャッシュフロー

1,800億円

「基盤機能強化」および「既存事業の継続成長」と「投資事業の成果創出」でキャッシュフローを創出する。

投資活動によるキャッシュフロー

1,300億円

「酒」「食」「飲」分野へ積極的にキャッシュ配分する。

有利子負債

D/ELレシオ1倍程度を目安とする

株主還元

配当性向30%を目安とする

第一次中期経営計画2020

2017年3月7日～

New 「エビス 華みやび」
新発売

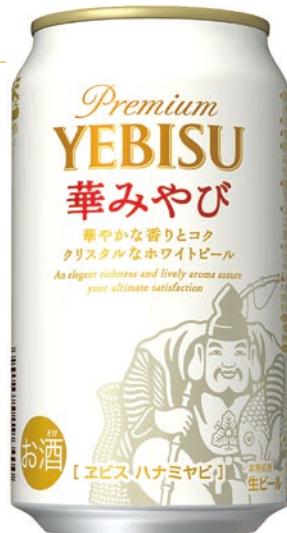
100年以上のエビスの歴史で初めて上面酵母を採用したエビスのホワイトビール誕生!

1,000株以上の酵母バンクの中から約2年半かけて選抜した「エビス上面酵母」を採用。また、小麦麦芽を一部使用することで、華やかでやわらかな味わいを引き出しました。

優雅なひとときを彩る華やかな香りとお酒のエビスです。

近年、お客様の嗜好が変わってきており、特に若い世代では、ビールの味覚に関して「香り」や「飲みやすさ」を重視する傾向がみられ、また「ゆったりとくつろぐ」ために飲むニーズも高まっています。このような声にお応えするため、エビスの歴史で初めて上面酵母を使用したホワイトビールを発売しました。これまでのエビスとは全く異なるおいしさを実感できる「エビス 華みやび」をお楽しみください。

サッポロビール(株)
ブランド戦略部 エビスブランドグループ
後藤 正明



2017年1月31日～

Renewal 「サッポロ 麦とホップ The gold」
リニューアル 発売



今回のリニューアルでは仕込方法を最適化。高品質な泡を実現し、上質なコクをより一層引き立て、コクの頂点を目指します!

「サッポロ 麦とホップ The gold」は1月末にリニューアルしました。2014年の発売以来、一貫して新ジャンルにおける「コク＝うまさ」を追求し進化を続けてきました。今後もお客様の「確かなものを選択し手にした満足感」から来る「日常における最高の瞬間・時間」のために、妥協することなく進化を続けます。



ワイン事業は
国内酒類事業 第二の柱へ
における

ビール事業に次ぐ第二の柱にすべく、「お客様価値No.1」のワイン事業を目指します!

国内酒類事業でビールに次ぐ「第2の柱」に成長させるべく、ワイン事業を強化します。日本ワイン「グランポレール」をはじめ、シャンパーニュ「テタンジェ」や「ペンフォールズ」などファインワインの販売を強化し、お客様との接点拡大に努め「ファインワインといえばサッポロビール」のイメージづくりに取り組みます。

一方で、ワラビーのアイコンでおなじみの「イエローテイル」や、3月7日に新発売した「ポレール ポリフェノール」でおいしさアップたっぷりサイズの濃い赤ワイン1800mlなど大容量でお得感のある機能系デイリーワインの取り組みにも力を入れ、お客様の毎日の食卓をより豊かで楽しいものにしていきます。



2016年12月製造分から順次切替出荷

「サッポロ 男梅サワー」
過去最高売上を達成!

「サッポロ 男梅サワー」と「サッポロ 男梅の酒」を同時リニューアル

「サッポロ 男梅サワー」は、2013年4月の限定発売以降、商品特長である「しょっぱい旨さ」が多くのお客様からご好評をいただき、2016年は通年で同ブランド全体の累計販売数量において過去最高の売り上げを記録しました。

さらに、通年販売を期待する声にお応えし、アルコール9%のガツンとくる飲みごたえの「サッポロ 超男梅サワー」を、本年3月7日より全国で通年販売を始めました。

発売5年目を迎えた「男梅」ブランドにしかないオンリーワンの価値である「しょっぱい旨さ」に磨きをかけ続けていきます。



世界での「SAPPORO」ブランド販売数量 10年間で2.5倍の成長!



欧州市場については、海外におけるグループシナジーの早期具現化を図るべく、ロンドン駐在員事務所を開設

北米ビール事業

北米事業はここ10年で安定した成長を遂げました。中でもスリーマン社は単体で、国内酒類事業、不動産事業に次ぐグループ3位の利益を創出しています。今後はSAPPORO USA社との連携をさらに強化します。

北米展開商品



SAPPORO
ブランド

ベトナムビール事業

2011年にロンアン工場を竣工し、ベトナム事業に進出して以来、毎年着実に販売数量を増やしています。今後は成果創出に向けてスピードを上げて取り組んでいきます。



スリーマン社 製造ブランド



リボンちゃんの 誕生から60年!



1957年(昭和32年)に誕生し、「Ribbon」ブランドのキャラクターとしておなじみのリボンちゃんが、今年2017年に誕生60周年を迎えます。

誕生秘話

昭和30年代、テレビが普及し始めたころ、1914年(大正3年)から続く「Ribbon」ブランドのテレビCMのために、子供向けのキャラクターを作ることになり、国内外から50種類以上の作品を検討していました。その中で、オーストラリアのサンプルフィルムに登場するシンプルで無駄のない動きのキャラクターに目が止まり、これをヒントにして誕生したのがリボンちゃんです。リボンちゃんは、当時話題になったテレビCMで一躍人気となり、その後60年間、時代とともに少しずつ



表情を変えながら、「Ribbon」ブランドのキャラクターとして愛され続けています。

リボンちゃん誕生60周年を記念して、「Ribbon」ブランドと他社とのコラボ商品の発売やキャンペーンなど、北海道エリアを中心に展開していきます。

沖縄の新名所?体験型ミュージアム 「BLUE SEAL ICE PARK」



ポッカサッポロの関係会社フォーモストブルーシール社が沖縄県浦添市に昨年9月よりオープンしている体験型ミュージアム「ブルーシールアイスパーク」は、オープン以来多く

の方にご来館いただき好評です。

「ブルーシール アイスパーク」は、沖縄の次世代を担う子供たちに、アイスクリームを通して夢を与えられる施設にしていきたい、という思いをコンセプトにしています。施設内は、「世界に一つだけ」のオリジナルアイスバーを手作りできる「体験ゾーン」、1948年のブルーシール誕生以来の歴史を紹介する「ストーリーゾーン」、飲食やイベント、撮影コーナーのある「コミュニティゾーン」があり、さらに、マイナス25度の冷凍庫体験や製造工程の見学もできるなど、アイスによってもたらされる“夢”と“創造”の楽しい遊び場となっています。

沖縄で愛され続けてきたブルーシールの歴史や想いを



知ることができるアイスパークで、お子様や家族と楽しい時間を過ごしてみたいか。沖縄を訪れた際は、是非ご来館ください!

広島駅前にエビスバー誕生 —中四国エリア初出店—

エビスバー出店エリア拡大
3月30日に新横浜駅前にも開店



エビスバー
エキシティ広島店



エビスバー
キュービックプラザ
新横浜店(イメージ)

「エビスバー」は2009年に東京・銀座で誕生し、サッポロライオンの主要ブランドとして成長してきました。2017年は、2月10日に中四国エリア初となる「エキシティ広島店」、3月30日に横浜市初となる「キュービックプラザ新横浜店」を開店し、計19店舗の展開となりました。

歴史深いコアブランドである「銀座ライオン」と共に、エビスビールの魅力を味わっていただくための役割を持つ「エビスバー」は、「Joy of Living—生きている喜び—」をお客様に提供していきます。

進化し続ける街 「恵比寿ガーデンプレイス」

食体験のバリエーションを充実



展望レストラン街38階



BRICK END
(ブリックエンド)

恵比寿ガーデンプレイスでは、食体験のバリエーションの充実を図るべく、昨年10月に展望レストラン街38階を「Grand & Casual～本物を気軽に楽しむ贅沢」をコンセプトに、モダンに和食が愉しめるフロアへと全面リニューアルしました。また、個性的な5店舗が顔を揃える「BRICK END(ブリックエンド)」や、いつもお客様で賑わっている人気のベーカリーカフェなど、新たな店舗が次々とオープンしています。

この街を訪れるお客様が様々なシーンに合わせて集い、楽しんでいただけるよう、これからも魅力溢れる施設づくりに努めていきます。

タイにおけるバイオエタノール生産事業への技術支援を開始

サッポロホールディングスは、2015年11月に終了したNEDO技術実証成果を元に、タイ企業のInnotech Green Energy Company Limited(以下、IGE社)と、世界初となるキャッサバパルプを用いたバイオエタノール製造プラントの実用化に向けて、バイオエタノール製造技術の提供およびプラント設計に関するコンサルティング契約を締結しました。



調印式の様子

IGE社が建設を目指すバイオエタノール製造プラントは年産6万klの製造能力を持ち、その温室効果ガス削減効果は約12万トン/年。これは当社の国内酒類事業で排出されるおよそ1年分のCO₂排出量に相当します。

今後、タイ国内にとどまらず、キャッサバ栽培が盛んなASEAN諸国へのバイオ燃料製造技術の普及、エネルギー・環境問題の解決に貢献してまいります。

伝説のホップ 「ソラチエース」の特長を解明

サッポロホールディングスは、サッポロビールで開発され、その個性的な香りから欧米のクラフトビールを中心に人気が高い稀少ホップ品種「ソラチエース」の特長を示す香り成分を発見したことを、World Brewing Congress(世界醸造大会、2016年8月、米国デンバー)にてサッポロビールと共同で発表しました。

本知見は「Craft Label THAT's HOP 伝説のSORACHI ACE(ジャパンプレミアムブリュワーズ)」に活かされ、ご好評をいただいております。



長年のホップ研究成果 日本醸造協会技術賞を受賞

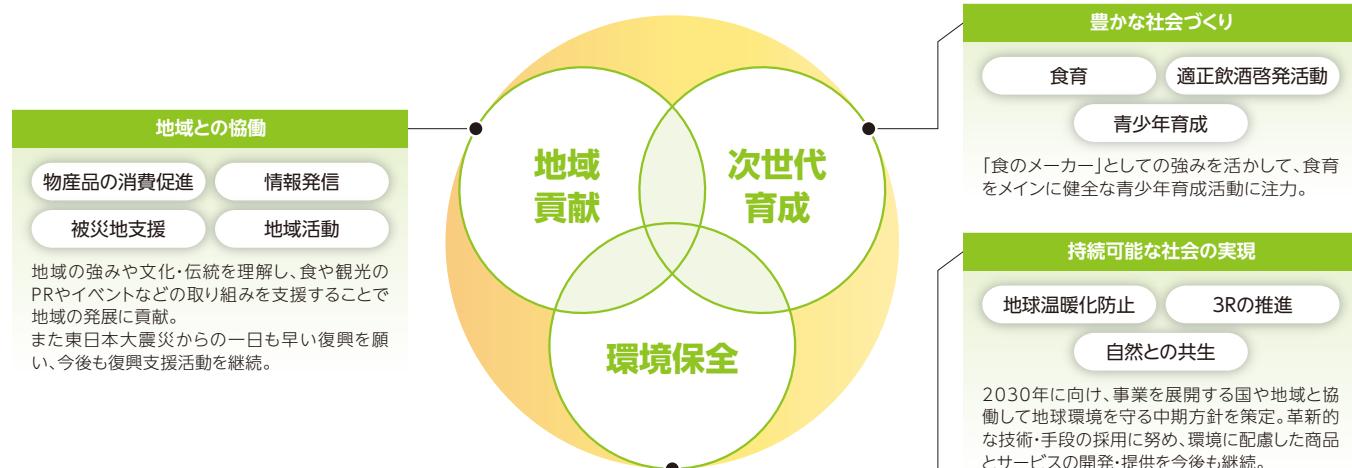
本研究は、これまでのホップ研究による知見が存分に活かされた成果です。

長年の研究実績が認められ、「ホップ香り成分の相互作用に関する研究」として、サッポロビール商品・技術イノベーション部 蛸井潔が「平成28年度日本醸造協会技術賞」を受賞しました。



サッポロビール(株)
商品・技術イノベーション部
商品・技術開発センター
担当部長 蛸井 潔

サッポログループは創業以来、事業を展開する国や地域の支援に感謝し、コミュニケーションを取りながら、地域に根ざした社会貢献活動に継続的に取り組んでいます。



次世代育成(ゆたかな社会づくり)

被災地(東北・熊本)の放課後学校「コラボ・スクール」を通じた次世代育成支援

東日本大震災、熊本地震で被害を受けた地域で子どもたちの学びの機会と居場所の提供を通じた心のケアを行う認定NPO法人カタリバに運営資金として合計1,900万円を寄付しました。この取り組みを通じ、子どもたちを取り巻く環境がよくなり、未来への活力につながるようにNPOとも対話を続け、課題解決に取り組んでいきます。



左から認定NPO法人カタリバ今村ディレクター、サッポロホールディングス(株)野瀬取締役

環境保全

地域の環境保全を支援

サッポロビールは、「サッポロ生ビール黒ラベル信州環境保全応援缶」を長野県で数量限定発売しました。この商品は、長野県が推進する県の環境保全に対する取り組みを応援するため、売上げ1缶につき1円を寄付しています。長野県の取り組みに賛同し、経済活性化の一助となるよう応援しています。



信州環境保全応援缶

地域貢献

株主優待制度を通じた東北復興支援を継続

昨年度は、株主様からの寄付金に当社から同額を加えた総額351万4,000円を、東北の復興を担う子どもたちへの教育支援として、3つの取り組みに寄付しました。6月に岩手県大船渡市へ「椿」をテーマとした学習支援」、岩手県大槌町へ「小中一貫教育“ふるさと科”学習支援」として寄付。12月に福島県合唱連盟・福島県吹奏楽連盟合同開催「ふくしま復興祈念特別演奏会inいわき」(本年2月開催)に寄付しました。



左から上條社長(当時)、合唱連盟 富田会長、吹奏楽連盟 高城会長



2月19日演奏会の様子

台風10号被害に伴う支援物資のお届け

昨年8月下旬に日本列島に上陸した台風10号は、河川決壊や土砂災害など北海道、岩手県を中心に大きな被害をもたらしました。サッポログループでは、北海道および岩手県に対し、「富士山麓のおいしい天然水」を支援物資としてお届けしました。また、復旧・復興にお役立ていただくため、支援金として合計400万円を寄付しました。



北海道芽室町へ支援物資を届けるサッポログループ配送車

左から岩手県 達増知事、グループCSR部 八木部長

左から幕別町 飯田町長、北海道本部 生方本部長

育児期従業員の活躍支援

サッポログループでは、一人ひとりの能力が最大限発揮できる環境の整備に取り組んでおり、その1つとして事業所内保育所を恵比寿ガーデンプレイス内にオープンいたします。

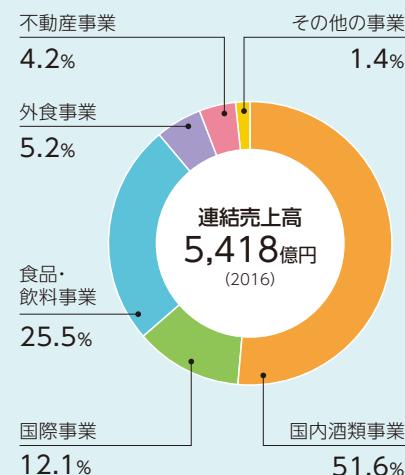
「コンソーシアム型」(複数企業向け)とし、サッポログループ内にとどまらず、恵比寿ガーデンプレイスタワーに入居するテナント企業様の育児期社員の支援や、地域の待機児童対策にも貢献いたします。



2017年4月開所(施設の設置・運営:株式会社ポピンス)

※イメージパース

■ セグメント別売上高構成比



■ セグメント別売上高



■ 連結財務ハイライト (億円)

	2015	2016	2017 (予想)
売上高	5,337	5,418	5,638
営業利益	139	202	213
経常利益	132	192	203
親会社株主に帰属する当期純利益	61	94	107
総資産	6,203	6,263	—
純資産	1,638	1,663	—
自己資本比率 (%)	25.5	25.7	—

財務の状況

総資産

のれんの償却による減少等はありませんでしたが、グループとゆかりが深い名古屋の中区栄にある商業ビルの信託受益権取得による有形固定資産増加等があったため、前連結会計年度末と比較して59億円増加し、6,263億円となりました。

負債

短期借入金の減少があった一方、長期借入金の増加等によって、前連結会計年度末と比較して34億円増加し、4,599億円となりました。

純資産

期末配当の実施や退職給付に係る調整累計額の減少等があったものの、当期純利益の増加等によって、前連結会計年度末と比較して25億円増加し、1,663億円となりました。

損益の状況

売上高

国内酒類事業ではビール強化や多層化の取り組みが奏功し、売上数量が増加したことに加え、食品・飲料事業で国内食品・飲料の売上数量が増加したことなどにより、前期と比較して80億円の増収となりました。

営業利益

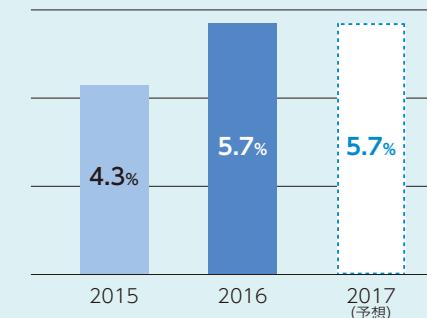
売上高の増収に加えコスト削減等の経営効率化の取り組みを進めたことにより、全事業での増益を達成し、前期と比較して63億円の増益となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益

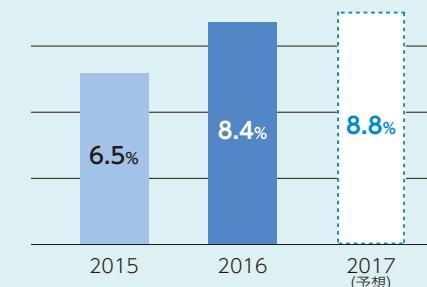
特別損失に固定資産除却損14億円や、減損損失10億円を計上したこともあり、親会社株主に帰属する当期純利益は前期と比較して33億円増益となりました。

■ 経営指標の推移

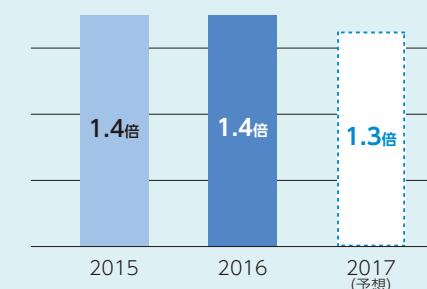
営業利益率 (のれん償却前・酒税抜き)



ROE (のれん償却前)*1



D/Eレシオ (Net)*2



*1 ROE: 自己資本利益率 *2 D/Eレシオ: 負債資本倍率

詳細は当社ホームページをご覧ください。

🔍 サUPPORT IR

🔍 検索

■ 会社概要

商号	サッポロホールディングス株式会社 (英文 SAPPORO HOLDINGS LIMITED)
設立	1949年9月1日(創業明治9年)
資本金	53,886,649,941円
事業内容	持株会社
連結対象会社数	57社(連結子会社55社、持分法適用会社2社)
本社	〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号 (恵比寿ガーデンプレイス内)

■ 株式の状況

発行済株式の総数 …… 78,794,298株

株主数 …… 54,785名

■ 大株主 (上位10名及びその状況)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,727	4.77
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,187	4.08
資産管理サービス信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ信託銀行口	2,442	3.13
日本生命保険相互会社	2,229	2.86
明治安田生命保険相互会社	2,202	2.82
農林中央金庫	1,875	2.40
株式会社みずほ銀行	1,806	2.31
丸紅株式会社	1,649	2.11
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	1,594	2.04
大成建設株式会社	1,400	1.80

※2016年7月1日付で株式併合(普通株式5株を1株に併合)を行っております。上記の持株数は当該株式併合後の持株数であります。
※持株比率は自己株式(747,991株)を控除して計算しています。

■ 所有者別株式分布状況



■ 役員 (2017年3月30日現在)

代表取締役会長	上條 努	常勤監査役	尾崎 聖治
代表取締役社長	尾賀 真城	監査役	関 哲夫
取締役 戦略企画部長	野瀬 裕之	監査役(社外)	佐藤 順哉
取締役 経営管理部長	征矢 真一	監査役(社外)	杉江 和男
取締役 人事部長	福原 真弓	常務グループ執行役員	高島 英也
取締役 グループR&D部長	吉田 郁也	常務グループ執行役員	岩田 義浩
取締役(社外)	服部 重彦	常務グループ執行役員	刀根 義明
取締役(社外)	池田 輝彦	常務グループ執行役員	生駒 俊行
取締役(社外)	鶴澤 静	常務グループ執行役員	溝上 俊男
		グループ執行役員	立山 正行
		グループ執行役員	岸 裕文

■ IRサイトのご案内

当社ホームページではIR情報や決算情報をはじめとした情報開示を行っております。



▶▶ <http://www.sapporoholdings.jp/ir/>

■ 株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月
配当金受領の株主確定日	12月31日及び 中間配当を実施するときは6月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び 特別口座の 口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 (フリーダイヤル)0120-288-324
公告方法	電子公告 http://sapporoholdings.jp/ ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告します。

株式事務に関するご案内

証券会社でお取引をされている株主様

お手続き お問い合わせ先	お取引のある証券会社
お手続き内容	住所変更、氏名・名称・代表者変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取り方法のご指定、相続に伴うお手続き等

特別口座に記録されている株式をお持ちの株主様

お手続き お問い合わせ先	<特別口座の口座管理機関> 上記の株主名簿管理人 (みずほ信託銀行株式会社 証券代行部) <取次所> みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 ※トラストラウンジでは、お取扱できませんのでご了承ください。 みずほ証券株式会社 本店、全国各支店及び営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)
お手続き内容	住所変更、氏名・名称・代表者変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取り方法のご指定、相続に伴うお手続き等

特別口座での留意事項
特別口座では、株式の売却はできません。売却するには、証券会社にお取引の口座を開設し株式の振替手続きが必要となります。
※単元未満株式の買取・買増請求は特別口座のままでも可能です。詳しくは、上記の株主名簿管理人(みずほ信託銀行株式会社証券代行部)にお問い合わせください。

※未払配当金のお支払いにつきましては、両株主様ともに上記の取次所が承ります。
※未払配当金のお支払いのうち、配当金領収証でのお受け取りにつきましては、上記取次所に加え、株式会社みずほ銀行の本支店でも承ります。

第93回 定時株主総会決議ご通知

2017年3月30日開催の第93回定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

記

報告事項

- 第93期(平成28年1月1日から平成28年12月31日まで)事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
- 第93期(平成28年1月1日から平成28年12月31日まで)計算書類報告の件

決議事項

- 第1号議案 剰余金の配当の件**
本件は、原案のとおり承認可決され、期末配当は1株につき37円と決定しました。
- 第2号議案 定款一部変更の件**
本件は、原案のとおり承認可決されました。なお、定款変更の概要は以下のとおりです。
株主総会の運営に柔軟性を持たせるため、株主総会の招集者及び議長に関する所要の変更を行いました。
- 第3号議案 取締役9名選任の件**
本件は、原案のとおり、取締役役に上條努、野瀬裕之、征矢真一、福原真弓、服部重彦、池田輝彦、鶴澤静の7氏が再選され、新たに、尾賀真城氏、吉田郁也の2氏が選任され、それぞれ就任しました。なお、服部重彦、池田輝彦、鶴澤静の3氏は社外取締役であります。
- 第4号議案 監査役1名選任の件**
本件は、原案のとおり、監査役に杉江和男が再任されました。なお、杉江和男氏は、社外監査役であります。
- 第5号議案 補欠監査役1名選任の件**
本件は、原案のとおり、補欠監査役に矢田次男氏が選任されました。なお、同氏は社外監査役の補欠監査役として選任されております。
- 第6号議案 取締役の報酬額改定の件**
本件は、原案のとおり、承認可決されました。
- 第7号議案 当社株券等の大規模買付行為への対応方針の承認の件**
本件は、原案のとおり、承認可決されました。

※各議案の詳細につきましては、当社IRサイトにてご確認くださいませようお願い申し上げます。